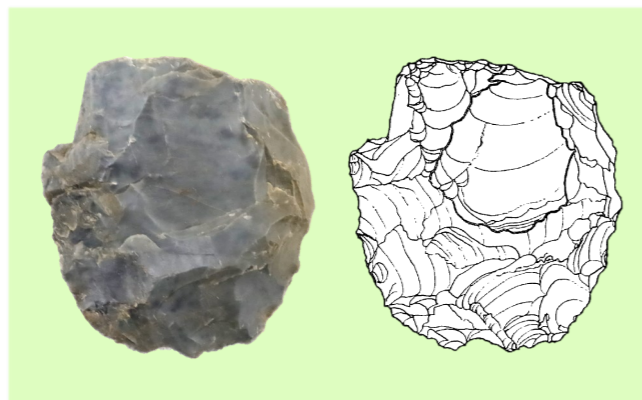


星野遺跡の発見

星野遺跡は栃木市(旧寺尾村星野)出身の故斎藤恒民さんが1965(昭和40)年に縄文時代のものと異なる石核を地元山口台地で発見したことを、旧石器時代研究者である東北大学の故芹沢長介助教授(当時)に伝えたことがきっかけとなり、その存在が判明しました。

斎藤さんは1963(昭和38)年頃から星野を中心に縄文時代の研究を独力で行っていましたが、この石核の発見により、旧石器時代についても精力的に研究し、その研究成果と星野遺跡周辺で採集した資料を一般公開するために、私財を投じて1985(昭和60)年に星野遺跡記念館を開館しました。

斎藤さんは後にこの石核発見の感動を「ほぼ円形の全周辺から中央方向に打ち欠いた痕が見事に残っていて、その中心部分が、大きく剥がされ凹みあとが青白く神秘的にさえ光っていた」と述べています。



▲斎藤さんが発見した石核(右は実測図)

大きさ:最大幅6.5cm、最大長7cm



周辺案内

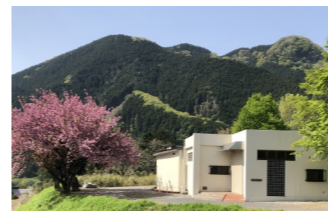
星野遺跡記念館(星野町392-4)

開館時間:午前9時30分~
午後4時30分

開館日:土日祝日のみ
(12月29日-1月3日を除く)

※その他、館内整理及び展示替え等による臨時休館あり

☎ 0282-31-2400[星野遺跡記念館]
0282-21-2497[栃木市教育委員会事務局文化課]



星野遺跡憩の森(星野町400)

常時開放
縄文時代の復元した竪穴式住居
があります。



星野遺跡地層たんけん館

(星野町504)

開館時間:午前9時30分~午後4時30分

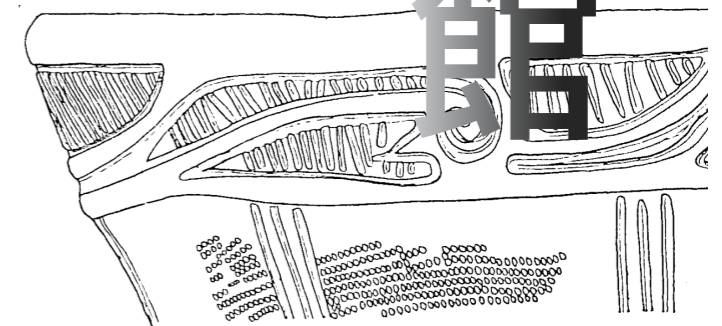
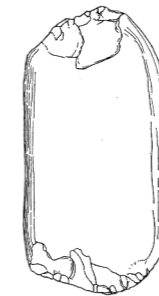
休館日:月曜日(祝日の場合は翌日休館)、12月25日~1月7日
星野遺跡の発掘調査で掘り下げた約10mの地層を観察できます。

四季の森星野[民営](星野町267)…常時開放

栃木市 星野遺跡記念館

HOSHINO
MUSEUM

星野遺跡記念館



星野遺跡の足あとをたどる

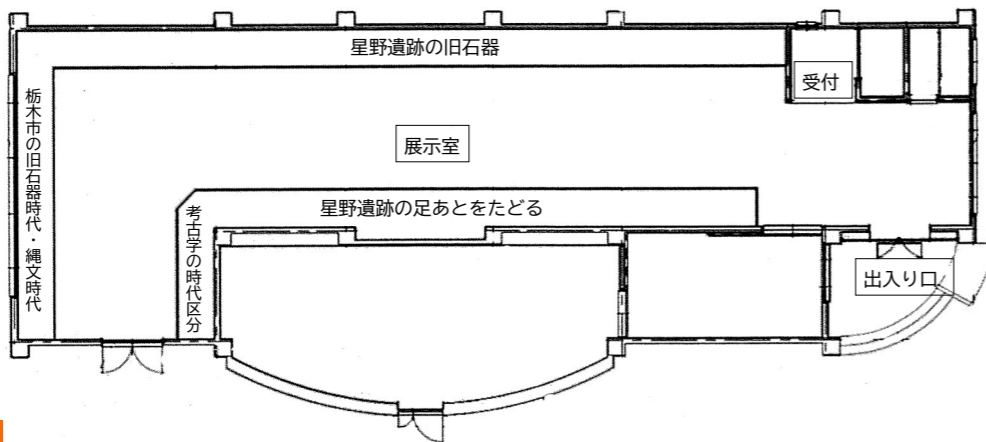
星野遺跡の第1次発掘調査風景写真やその時に発見された縄文時代の土器、石器などを展示しています。また、第3次調査の様子やその後の星野遺跡周辺の整備について紹介しています。星野遺跡の歴史をたどることができます。



◀第1次調査で発見された縄文時代の竪穴式住居跡の炉跡
炉の中に土器が埋め込まれていた

栃木市の旧石器時代・縄文時代

栃木市内では旧石器時代の遺跡が12カ所、縄文時代の遺跡が約200カ所あることが分かっています。主な遺跡から発見された旧石器と縄文石器を展示し、それらの種類と使用法について解説しています。
※ここでいう「旧石器時代」とは後期旧石器時代のことです



星野遺跡の旧石器

発掘調査によって発見された旧石器と斎藤さんが独自の調査で回収した資料を展示しています。この展示コーナーは考古研究者の監修によるもので、星野遺跡の旧石器の特徴などを解説しています。



▲星野遺跡第1次調査で発見された後期旧石器時代の尖頭器



考古学の時代区分

考古学では石器や土器などの資料を特徴ごとに分類して、それらを秩序立てて整理し、時代や時期の新旧を決定します。このコーナーでは、時代、時期とともに変化する縄文土器の文様の違いを解説しています。



星野遺跡のあらまし

斎藤恒民さんの石核発見をきっかけとして、1965(昭和40)年から、栃木市と東北大学により星野遺跡の発掘調査が行われました。指揮をとったのは、東北大学の芹沢長介助教授(当時)です。

1978(昭和53)年までの間に5回の発掘調査が行われ、星野遺跡は旧石器時代と縄文時代の遺跡であることが分かりました。

芹沢教授はこの遺跡が旧石器時代の中でも古い時代にあたる前期旧石器時代の遺跡である可能性が高いと考え調査研究を進め、星野遺跡では7~8万年前から人類が生活していたとしてよいだろうと発表をしましたが、この見解に疑問をもつ研究者もおり学会で論争が起きました。

それから半世紀ほど経ちますが、現在では、約4万年前から日本列島に人類が存在していたという見解が研究者の間で一致しているものの、それ以前に存在していたのかについてはまだ議論が続いています。

星野遺跡については、後期旧石器時代以降、人が存在していたことは間違いありませんが、それ以前の前期・中期旧石器時代が存在したのか結論はでていません。星野遺跡発見から長い時間が経ちましたが、栃木市の歴史のなかで貴重な学術調査が行われた遺跡として今後も大切に保存活用すべき遺跡です。

調査地点を決めるために▶
試し掘りをする芹沢教授たち

